インドシナ及び周辺諸国の農業人口,土地利用,穀物生産統計

誌名	九州大学大学院農学研究院学芸雑誌
ISSN	13470159
著者名	江頭,和彦
発行元	九州大学大学院農学研究院
巻/号	57巻1号
掲載ページ	p. 99-108
発行年月	2002年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council Secretariat

九大農学芸誌（Sci. Bull. Fac. Agr., Kyushu Univ.）
第57巻　第1号　99-108（2002）

インドシナ及び周辺諸国の農業人口，土地利用，穀物生産統計

江　頭　和　彦*
九州大学大学院農学研究院植物資源科学部門植物生産科学講座土壌学研究室
（2002年5月15日受付，2002年7月12日受理）

Statistics on Agricultural Population, Land Use, and Production of Cereals in Southeastern and Southern Asian Countries

Kazuhiko EGASHIRA*
Laboratory of Soil Science, Division of Soil Science and Plant Production,
Department of Plant Resources, Faculty of Agriculture,
Kyushu University, Fukuoka 812-8581, Japan

1. はじめに

インドシナ3国及び周辺の東南アジア・南アジア諸国，即ちヴィエトナム（Viet Nam），ラオス（Laos），カンボディア（Cambodia），タイ（Thailand），マレーシア（Malaysia），ミャンマー（Myanmar），スリランカ（Sri Lanka），バングラデシュ（Bangladesh），ブータン（Bhutan），ネパール（Nepal），パキスタン（Pakistan），アフガニスタン（Afghanistan），フィリッピン（Philippines），インドネシア（Indonesia）の14国について，FAO農業生産年報（国際連合食糧農業機関（編）国際食糧農業協会（訳），2001）から抜粋して，農業人口，土地利用，穀物生産についての統計資料を提示する．インドシナ3国のこれらアイテムに関する特徴あるいは位置付けを明らかにするのを目的とする．

2. 農業人口

表1に対象とした14国の1990，1995，1999年の総人口並びに農業人口と総人口に対する農業人口割合を示す．14国のうち，総人口と農業人口が最も多いのはインドネシアで，逆に最も少ないのはブータンであり，1999年の人口統計で見ると，総人口で100倍，農業人口で50倍の開きがある．インドシナ3国では，同じく1999年の統計で見て，総人口はヴィエトナムが7.9千万人で，インドネシア，パキスタン，バングラデシュに次いで4位，カンボディアは1.1千万人，ラオスが5.3百万人で，それぞれ12位と13位．農業人口では，ヴィエトナムが5.3千万人で同じく4位，カンボディア7.7百万人，ラオス4.1百万人で，マレーシアを抜いてそれぞれ11位と12位である．1990年から1999年への総人口の推移を見ると，総人口は，増加率には国によって差があるものの，いずれの国でも増加した．

総人口に対する農業人口の割合（農業人口率）の1999年の値と1990年から1999年への推移を基に，14国の類別と特徴づけを試みた．

ブータン，ネパール：農業人口率が90％を超え，依然高いまま維持されている．1990年から1999年までの9年間の農業人口の増加率は，1990年の農業人口を基準にして21～24％と大きい（以後，両年次間の増加率あるいは減少率を論じる場合は，出発年次の数値を基準とする）．

ヴィエトナム，ラオス，カンボディア，ミャンマー，アフガニスタン：インドシナ3国を含むグループで，農業人口率が70～60％台にある．1990年と1999年の間の農業人口率の低下は1.5～3.5％と小さい．同じ期間の農業人口の増加率は，ミャンマーでは7％とやや低いものの，残りは10％を超え，ヴィエトナム12％，ラ

* Corresponding author（E-mail: kegashi@agr.kyushu-u.ac.jp）

表1 総人口並びに農業人口（1990～1999）（単位：1000人）

国名	項目	1990	1995	1999	国名	項目	1990	1995	1999
ヴィエトナム	総人口（a）	66689	73866	78705	バングラデシュ	総人口（a）	109465	118616	126947
	農業人口（b）	47546	51232	53330		農業人口（b）	71460	71868	72001
	b/a（%）	71.3	69.4	67.8		b/a（%）	65.3	60.6	56.7
ラオス	総人口（a）	4152	4773	5297	ブータン	総人口（a）	1696	1847	2064
	農業人口（b）	3242	3688	4057		農業人口（b）	1597	1735	1936
	b/a（%）	78.1	77.3	76.6		b/a（%）	94.2	93.9	93.8
カンボディア	総人口（a）	8652	9982	10945	ネパール	総人口（a）	18772	21272	23385
	農業人口（b）	6388	7184	7710		農業人口（b）	17580	19862	21782
	b/a（%）	73.8	72.0	70.4		b/a（%）	93.7	93.4	93.1
タイ	総人口（a）	55595	58610	60856	パキスタン	総人口（a）	119155	136244	152331
	農業人口（b）	31622	30933	30252		農業人口（b）	66220	72360	78021
	b/a（%）	56.9	52.8	49.7		b/a（%）	55.6	53.1	51.2
マレーシア	総人口（a）	17845	20108	21830	アフガニスタン	総人口（a）	14755	19663	21923
	農業人口（b）	4646	4314	4011		農業人口（b）	10376	13507	14762
	b/a（%）	26.0	21.5	18.4		b/a（%）	70.3	68.7	67.3
ミャンマー	総人口（a）	40520	42877	45059	フィリッピン	総人口（a）	60687	68354	74454
	農業人口（b）	29688	30770	31776		農業人口（b）	27687	28969	29748
	b/a（%）	73.3	71.8	70.5		b/a（%）	45.6	42.4	40.0
スリランカ	総人口（a）	17045	17920	18639	インドネシア	総人口（a）	182812	197464	209255
	農業人口（b）	8402	8563	8688		農業人口（b）	93085	93591	93651
	b/a（%）	49.3	47.8	46.6		b/a（%）	50.9	47.4	44.8

総人口：一般に現在の地理的境界内の地域内在住の（事実上の）人口；農業人口：生計を農業に依存している全ての者を言い，現実に農業に従事する全ての者及びその非活動扶養家族を含む．

オス，カンボディア21～25%，アフガニスタンは42%である．

バングラデシュ：農業人口率が1990年と1999年の間で60%台半ばから50%台半ばへ低下した．農業人口率が14国中最大の8.6%低下し，数年以内には50%を切ることが予想される．同期間の農業人口の増加も1%未満に留まり，実質上変化無しと言える．背景として，農業だけでは農村人口を支えきれなくなり，特に男性の大都市への流出とそこでのリキシャマン等の日雇い的就労が推察される．

パキスタン：1999年の農業人口率は51%で，この9年間50%台前半に留まる．この期間の農業人口率の低下が4.4%とやや小さく，その要因として農業人口の増加率が18%と大きいことが上げられる．農業人口では既にバングラデシュを逆転し，農業人口率でもバングラデシュを早晩上回ることが予測される．

スリランカ：農業人口率は既に1990年50%を切っていたが，その後の農業人口率の低下が2.7%と小さく，1999年でも40%台後半に留まる．1990年と1999年の間の農業人口の増加率は3%と小さいものの総人口増加率も9%と小さく，農業人口率の低下がなかなか進まない．

タイ，フィリッピン，インドネシア：農業人口率が40%台にあり，1990年と1999年の間の農業人口率の低下も5.6～7.2%とやや大きい．9年間の農業人口の推移を見ると，タイではわずかながらも減少し，インドネ

シアではほとんど変化なく，フィリッピンでは7％増加した．

マレーシア：農業人口率が20％を切り，更に低下を続けることが予想される．農業人口の減少も大きく，1990年と1999年の間の減少率は14％に上る．同国の産業構造の変化と三次産業への集中がうかがわれる．

3．土　地　利　用

表2に，14国の1985，1990，1995，1998年の総面積，土地面積，耕地面積，永年作物地面積を示す．総面積に占める土地面積の割合は，バングラデシュが90.4％で最も低い．バングラデシュの高い内水面割合は，国内を流れる世界有数の大河，ジョムナ（ブラマプトラ）川とポッダ（ガンジス）川による．残り13国ではこの割合は95％以上で，ブータンとアフガニスタンでは100％である．インドシナ3国では，総面積に対する土地面積割合は97～98％の範囲にある．これら国での内水面は，ヴィエトナムは紅河とメコン川，ラオスはメコン川，カンボディアはメコン川とトンレサップ湖による．

1998年統計による，土地面積に対する耕地面積の割合（耕地率）並びに永年作物地面積の割合（永年作物地率）に基づいて，14国の土地利用の類別と特徴づけを試みた．

バングラデシュ：耕地率が60％で14国中最も高い．国土の多くがガンジス－ブラマプトラデルタの低平地に位置し，土地の6割が耕地として利用され，水稲が広く栽培される．永年作物地率は3％と低い．耕地面積は1990年と1995年の間で大きく減少し，減少率は14％に上る．工場用地・宅地への転用や道路などインフラ整備に伴う潰廃が，主な理由として上げられる．

タイ：耕地率は33％で，土地の1/3が耕地として利用される．耕地面積は1985年以降減少傾向にある．永年作物地率は7％で，耕地と合わせて国土の4割が作物生産に利用される．永年作物地面積は，1985年と1998年の間で66％増加した．商品性果樹栽培の増加によると推察する．

パキスタン：耕地率は28％であり，耕地面積は1985年以降漸増している．永年作物地率は1.0％未満である．作物生産は耕地中心で，小麦が主に栽培される．

カンボディア，ネパール：耕地率は21～20％，永年作物地率は1.0％未満である．耕地面積は，カンボディアは1985年と1990年の間で61％，ネパールは1990年と1995年の間で27％増加し，それ以降そのレベルにある．カンボディアでは耕地の純増よりも内戦終結による作付再開が考えられ，ネパールでは開墾・開田と推察する．

フィリッピン，インドネシア：耕地率は18％と10％，永年作物地率は15％と7％であり，数値の大きさに両国でやや差が見られるけれども，耕地率と永年作物地率がほぼ拮抗する点で類似する．フィリッピンでは，耕地面積は1985年以降微増，永年作物地面積には変化が見られない．インドネシアでは，耕地面積は1990年を境にやや大きく減少し，永年作物地面積は1985年と1995年の間で63％増加した．インドネシアの永年作物地面積の増加は，多くが森林を焼き払ってのプランテーション農業の広がりによるもので，パームオイル，ゴム，コーヒー，カカオ等が栽培される．

ヴィエトナム：耕地率17％で，永年作物地率5％である．耕地面積は1985年の値がやや高く，1990年低下したが，それ以降は増加している．永年作物地面積は1985年から1998年までにほぼ倍増した．永年作物としてはコーヒー，茶，ゴムが栽培される．

ミャンマー：耕地率は15％，永年作物地率は1.0％未満である．耕地面積は1985年以降ほぼ一定し，変化は見られない．

スリランカ：耕地率は13％，永年作物地率は16％で，耕地率を上回る．水稲と並んで，茶が農業生産の柱となっていることがうかがわれる．耕地面積，永年作物地面積とも，1985年以降ほとんど変化は見られない．

アフガニスタン：耕地率は12％で，永年作物地率は0.5％にも満たない．1985年以降全く同じ数値なのは，1970年代以降の内戦で，統計が取れなかったのであろう．

マレーシア：耕地率は6％と低い．しかし，永年作物地率は18％で，耕地率を大幅に上回る．耕種農業よりプランテーション農業が主で，パームオイル，ゴム，コーヒー等が栽培される．耕地面積，永年作物地面積とも増加し，1985年と1998年の間の増加率は，それぞれ42％，36％である．

ラオス，ブータン：耕地率3％，永年作物地率0.5％未満であり，14国中最も低いレベルにある．山岳国で，低地が極めて少ないことがうかがわれる．耕地面積は，ラオスでは1990年以降ほぼ一定，ブータンでは増加した．

1998年の耕地と永年作物地の合計面積（表2）を1999年の農業人口（表1）で割り，農業人口当たりの農地面積を計算し，大きい順に並べてみた．（　）内はその数値で，単位はha/人である．

マレーシア（1.90）＞タイ（0.67）＞アフガニスタン

表 2 土地利用（1985～1998）（単位：1000ha）

国 名	項 目	1985	1990	1995	1998	国 名	項 目	1985	1990	1995	1998
ヴィエトナム	総面積	33169	33169	33169	33169	バングラデシュ	総面積	14400	14400	14400	14400
	土地面積	32549	32549	32549	32549		土地面積	13017	13017	13017	13017
	耕地面積	5616	5339	5509	5668F		耕地面積	8860	9137F	7823F	7901F
	永年作物地面積	805	1045	1248	1534F		永年作物地面積	275F	300F	325F	340F
ラオス	総面積	23680	23680	23680	23680	ブータン	総面積	4700	4700	4700	4700
	土地面積	23080	23080	23080	23080		土地面積	4700	4700	4700	4700
	耕地面積	835F	807F	800F	800F		耕地面積	110F	113F	130F	140F
	永年作物地面積	35F	43F	50F	52F		永年作物地面積	19F	19F	20F	20F
カンボディア	総面積	18104	18104	18104	18104	ネパール	総面積	14718	14718	14718	14718
	土地面積	17652	17652	17652	17652		土地面積	14300	14300	14300	14300
	耕地面積	2300F	3695F	3700F	3700F		耕地面積	2280F	2286F	2898F	2898F
	永年作物地面積	70F	100F	107F	107F		永年作物地面積	55F	64F	70F	70F
タイ	総面積	51312	51312	51312	51312	パキスタン	総面積	79610	79610	79610	79610
	土地面積	51089	51089	51089	51089		土地面積	77088	77088	77088	77088
	耕地面積	17693	17494	16839	16800F		耕地面積	20202	20484	20984F	21440F
	永年作物地面積	2154	3109	3571	3575F		永年作物地面積	408	456	566	610F
マレーシア	総面積	32975	32975	32975	32975	アフガニスタン	総面積	65209	65209	65209	65209
	土地面積	32855	32855	32855	32855		土地面積	65209	65209	65209	65209
	耕地面積	1280F	1700F	1820	1820F		耕地面積	7910	7910F	7910F	7910F
	永年作物地面積	4250F	5200F	5784	5785F		永年作物地面積	144	144F	144F	144F
ミャンマー	総面積	67658	67658	67658	67658	フィリッピン	総面積	30000	30000	30000	30000
	土地面積	65755	65755	65755	65755		土地面積	29817	29817	29817	29817
	耕地面積	9593	9567	9540	9556		耕地面積	5350F	5480F	5500F	5500F
	永年作物地面積	474	502	570	595F		永年作物地面積	4400F	4400F	4400F	4400F
スリランカ	総面積	6561	6561	6561	6561	インドネシア	総面積	190457	190457	190457	190457
	土地面積	6463	6463	6463	6463		土地面積	181157	181157	181157	181157
	耕地面積	846F	875F	866F	868F		耕地面積	19500F	20253	17130F	17941F
	永年作物地面積	1030F	1025F	1020F	1020F		永年作物地面積	8000F	11720	13050F	13046F

総面積：内水面（一般に主要河川及び湖を含むと定義される）を含む当該国の全面積；土地面積：内水面を除く当該国の全面積；耕地面積：一時的作付地（2期作は1回と計算），採草地又は放牧用の短年牧草地，市場用菜園及び家庭菜園用地，並びに一次的（5年以下）休閑地の面積；永年作物地面積：ココア，コーヒー及びゴム等の長期間土地を使用し，毎年収穫後，再植付を必要としない土地の面積．
F：FAOによる推定．

(0.55)>カンボディア (0.49)>フィリッピン，インドネシア (0.33)>ミャンマー (0.32)>パキスタン (0.28)>スリランカ (0.22)>ラオス (0.21)>ヴィエトナム，ネパール (0.14)>バングラデシュ (0.11)>ブータン (0.08).

国により土地政策，土地所有制度，生産形態が異なるので，数値が農民による土地所有について直接の情報を与えるものではないにしても，マレーシアの突出，カンボディアの中上位，ラオスの中下位，ヴィエトナム，ネパール，バングラデシュ，ブータンの下位がうかがわれる.

人口統計，土地利用統計の解析に基づいて，各国を次のように特徴づけてみた．即ち，インドシナ3国（ヴィエトナム，ラオス，カンボディア）の農業人口率の類似と土地利用の相違，タイの脱耕種農業化の傾向，マレーシアの低い農業依存と永年作物生産の優位，ミャンマーとスリランカの農業人口並びに土地利用の停滞，バングラデシュの高い耕地率と土地所有の貧困，ブータンとネパールの高い農業依存と規模の零細，パキスタンの総人口と農業人口の突出した増加，アフガニスタンの高い農業人口増加率，フィリッピンとインドネシアの農業人口変動と土地利用の高い同質性．各国の農業的特徴を浮き彫りにできたのではないかと思っている.

4. 穀 物 生 産

穀物生産統計として，穀物生産指数と，稲，小麦，玉蜀黍の生産について示す.

1．穀物生産指数

表3に，1989-91年の平均穀物生産を100としたときの，1992年以降1999年まで各年次の穀物生産指数を，総生産と1人当たり生産について示す．FAO農業生産年報（国際連合食糧農業機関（編）国際食糧農業協会（訳），2001）では，穀物は穀粒（grains）のみを収穫するための作物を言い，生産指数はラスパイレル方式で計算されている．アフガニスタンは，データの入手がない．穀物生産指数の上昇は，14国の中ではヴィエトナムが最も顕著で，総生産指数，1人当たり生産指数とも1992年以降ほぼ直線的に上昇し，1999年の指数はそれぞれ165，140に達した．このことは，同国における，ドイモイ後の農民の生産意欲向上に伴う生産基盤の整備，生産資材投入の増大，生産技術の進歩に符号する．ヴィエトナムに次いで，ラオスとカンボディアの生産指数の上昇が大きかった．大きな年次変動やジグザグ形の上昇を見せながらも，1999年の生産指数は，総生産で153と149，1人当たり生産で120と118であった.

インドシナ3国に対し，バングラデシュ，ブータン，ネパールでは，総生産指数の上昇は緩慢で，1995年以降は110前後で推移した．これら3国の1人当たり生産指数は常に100以下にあり，特にブータンとネパールでは1997年以降低下し，1999年は91であった．ミャンマー，スリランカでも，穀物生産指数は1995年以降停滞あるいは低下傾向にある．パキスタンでは，総生産指数は経年的に上昇しているが，1人当たり生産指数は100前後で推移し，上昇は見られない．このような穀物生産指数の頭打ちあるいは低下の要因として，パキスタンでは総人口の大幅な上昇が推定される．バングラデシュでは，これまでの経験から，都市化・工業化・インフラ整備に伴う耕地の転用・潰廃，都市への人口集中に伴う農村生産基盤の崩壊，生産環境の悪化などが上げられる．ブータン，ネパールでは，生産技術の遅れや生産資材の不足などが指摘される．ミャンマーとスリランカは現地経験がなく，穀物生産指数の停滞や低下の要因は不明であるが，あるいは農民の生産意欲の減退があるのかもしれない．そのため，特にミャンマーには，土地利用や農業環境の現状調査に早急に出かけたいと願っている．タイ，マレーシア，フィリッピン，インドネシアで見られる穀物生産指数の大きさと推移は，むしろ政策的なもので，農業から工業への国の重点の移行に伴うものと考えられる．穀物生産指数のある年次での急激な落ち込みは，洪水や旱魃などの自然災害に起因する生産量の低下によると思われる.

2．稲

表4に，稲生産（籾）について，1989-91年と1997～1999年の収穫面積，収量，生産量を示す．稲は主要穀物あるいはそのひとつとして，14国全てで生産される．収穫面積，収量，生産量の各々について，1999年の統計を基に，14国を大（高）→小（低）の順に並べた.

収穫面積：インドネシア>バングラデシュ>タイ>ヴィエトナム>ミャンマー>フィリッピン>パキスタン>カンボディア>ネパール>スリランカ>ラオス>マレーシア>アフガニスタン>ブータン.

収量：インドネシア>ヴィエトナム>スリランカ>ミャンマー>ラオス>パキスタン，マレーシア，フィリッピン，バングラデシュ>アフガニスタン>ネパール>タイ>カンボディア>ブータン.

生産量：インドネシア>ヴィエトナム>バングラデシュ

表3 穀物生産指数（1992～1999）（1989-91＝100）

国　名	項　目	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
ヴィエトナム	総生産	111.8	118.5	122.9	130.3	138.8	144.8	152.9	164.8
	1人当たり生産	107.1	111.2	113.1	117.6	123.1	126.4	131.5	139.6
ラオス	総生産	109.1	90.8	114.3	102.7	103.8	121.2	123.8	153.4
	1人当たり生産	102.9	83.2	101.9	89.2	87.7	99.8	99.4	120.0
カンボディア	総生産	88.0	93.9	87.7	130.6	133.7	134.0	137.8	149.2
	1人当たり生産	82.7	85.8	77.9	113.0	112.8	110.5	111.1	117.7
タイ	総生産	101.7	93.6	107.9	112.5	115.2	118.7	118.6	119.7
	1人当たり生産	99.2	90.4	103.2	106.7	108.2	110.4	109.3	109.3
マレーシア	総生産	104.6	106.4	108.2	107.7	112.9	107.5	98.2	98.2
	1人当たり生産	99.6	98.9	98.3	95.7	98.1	91.5	82.0	80.4
ミャンマー	総生産	108.8	122.7	133.2	131.2	130.5	128.9	121.5	125.2
	1人当たり生産	106.3	118.5	127.3	124.0	121.8	118.8	110.6	112.5
スリランカ	総生産	100.2	107.7	114.9	120.6	88.3	96.0	115.6	115.6
	1人当たり生産	98.2	104.5	110.4	114.7	83.2	89.6	106.8	105.8
バングラデシュ	総生産	102.3	100.9	94.3	98.5	105.5	105.7	107.1	113.2
	1人当たり生産	99.0	96.1	88.4	90.9	95.8	94.3	93.9	97.6
ブータン	総生産	102.9	102.5	104.7	110.6	110.6	110.6	110.6	110.6
	1人当たり生産	99.4	97.5	98.0	101.5	99.0	96.4	93.5	90.8
ネパール	総生産	83.9	102.7	92.9	107.5	112.0	110.0	111.6	113.6
	1人当たり生産	79.7	95.2	84.0	94.8	96.4	92.5	91.6	91.1
パキスタン	総生産	104.5	114.5	106.2	118.5	120.9	120.2	132.7	128.2
	1人当たり生産	98.8	105.4	95.3	103.5	102.8	99.3	106.7	100.2
アフガニスタン	総生産								
	1人当たり生産								
フィリッピン	総生産	98.6	98.9	104.2	104.5	111.4	111.2	100.2	113.8
	1人当たり生産	94.1	92.1	94.7	92.8	96.8	94.5	83.4	92.8
インドネシア	総生産	109.1	107.0	104.4	112.6	116.8	112.5	114.1	113.3
	1人当たり生産	105.6	102.1	98.1	104.3	106.5	101.1	101.0	98.9

＞タイ＞ミャンマー＞フィリッピン＞パキスタン＞カンボディア＞ネパール＞スリランカ＞ラオス＞マレーシア＞アフガニスタン＞ブータン．

インドシナ3国において，ヴィエトナムは，収穫面積ではタイに次いで4位であるが，生産量は2位である．収量は，このままの伸びが続けば，早晩1位のインドネシアを追い抜くことが期待される．ヴィエトナムは，収穫面積，収量，生産量のいずれにおいても，

表4　稲生産（籾）（1989-91～1999）

国　名	項　目	1989-91	1997	1998	1999	国　名	項　目	1989-91	1997	1998	1999
ヴィエトナム	収穫面積	6075	7100	7362	7648	バングラデシュ	収穫面積	10386	10263	9974*	10470*
	収量	3175	3877	3958	4105		収量	2598	2743	2837	2852
	生産量	19281	27524	29142	31394		生産量	26980	28152	28293	29857
ラオス	収穫面積	601	599	618	718	ブータン	収穫面積	26	30F	30F	30F
	収量	2282	2772	2712	2930		収量	1654	1667	1667	1667
	生産量	1373	1660	1675	2103		生産量	43	50F	50F	50F
カンボディア	収穫面積	1763	1929	1961	1961F	ネパール	収穫面積	1433	1511	1506	1514
	収量	1432	1771	1790	1938		収量	2352	2368	2417	2450
	生産量	2524	3415	3510	3800		生産量	3371	3579	3641	3710
タイ	収穫面積	9241	9913	10000F	10000F	パキスタン	収穫面積	2106	2317	2424	2400*
	収量	2098	2379	2278	2327		収量	2309	2805	2893	2875
	生産量	19398	23580	22784	23272		生産量	4862	6500	7011	6900*
マレーシア	収穫面積	676	690	674	674F	アフガニスタン	収穫面積	173	180*	180	180F
	収量	2926	3071	2869	2869		収量	1907	2222	2500	2500
	生産量	1980	2120	1934	1934F		生産量	329	400*	450	450F
ミャンマー	収穫面積	4689	5768	5408	5458	フィリッピン	収穫面積	3414	3842	3170	3978*
	収量	2913	3064	3079	3128		収量	2836	2933	3229	2863
	生産量	13661	17673	16651	17075		生産量	9672	11269	10236	11388*
スリランカ	収穫面積	770	690	829	829F	インドネシア	収穫面積	10438	11141	11730	11624
	収量	3026	3245	3247	3247		収量	4298	4432	4197	4261
	生産量	2330	2239	2692	2692F		生産量	44864	49377	49237	49534

単位：収穫面積，1000ha；収量，kg/ha；生産量，Gg.
F：FAOによる推定；*：非公式数字.

14国中最大の伸びを示し，インドネシア，バングラデシュ，タイが減速傾向にあるのと好対照をなす．ラオスは，低い耕地率のため，収穫面積，生産量ともに11位である．しかし，収量は5位であり，収穫面積，収量，生産量において，停滞を見せながらも上昇を示している．カンボディアは，収量が2 Mg/ha に満たずに13位である．収穫面積と生産量は8位であるが，収量，収穫面積，生産量のいずれも，1997年以降頭打ちの状態にある．

3．小麦，玉蜀黍

表5と6に，それぞれ小麦と玉蜀黍について，1989-91年と1997～1999年の収穫面積，収量，生産量を示す．小麦は，インドシナ3国を含めて7国でデータの記載が無い．小麦が栽培されていないか，栽培されていても，収穫面積と生産量が1000ha あるいは1 Gg 以下と予想される．小麦は，パキスタンが最大（高）の収穫面積と生産量を示し，アフガニスタン，バングラデシュと続く．小麦収量はバングラデシュが最高で，パキスタン，ネパールと続く．玉蜀黍は14国全てで栽培されている．収穫面積と生産量はインドネシアが最大（高）で，フィリッピン，タイと続く．収量はタイが最高で，インドネシア，ヴィエトナムの順である．玉蜀黍の収量をインドシナ3国で比較すれば，稲と同様に，ヴィエトナム＞ラオス＞カンボディアの順であ

表5 小麦生産（1989-91～1999）

国 名	項 目	1989-91	1997	1998	1999	国 名	項 目	1989-91	1997	1998	1999
ヴィエトナム	収穫面積					バングラデシュ	収穫面積	584	708	805	845*
	収量						収量	1668	2054	2240	2259
	生産量						生産量	972	1454	1803	1908
ラオス	収穫面積					ブータン	収穫面積	6	7F	7F	7F
	収量						収量	747	714	714	714
	生産量						生産量	5	5F	5F	5F
カンボディア	収穫面積					ネパール	収穫面積	599	665	640	641
	収量						収量	1403	1588	1610	1695
	生産量						生産量	840	1056	1030	1086
タイ	収穫面積		1F	1F	1F	パキスタン	収穫面積	7829	8109	8355	8312
	収量		682	625	625		収量	1844	2053	2238	2162
	生産量		1*	1F	1F		生産量	14433	16651	18694	17970
マレーシア	収穫面積					アフガニスタン	収穫面積	1623	2124	2186	2186F
	収量						収量	1063	1276	1296	1296
	生産量						生産量	1725	2711	2834	2834F
ミャンマー	収穫面積	129	97*	88	96	フィリッピン	収穫面積				
	収量	977	894	1047	973		収量				
	生産量	126	87*	92	93		生産量				
スリランカ	収穫面積					インドネシア	収穫面積				
	収量						収量				
	生産量						生産量				

単位：収穫面積，1000ha；収量，kg/ha；生産量，Gg.
F：FAOによる推定；*：非公式数字.

り，カンボディアの収量は，ヴィエトナム及びラオスの1/2以下である．生産技術の遅れ・生産資材の不足に加え，カンボディア耕地の自然肥沃度の低さが指摘される．

各国における1999年の稲（籾），小麦，玉蜀黍の生産量の比較により，次のような類別を試みた．

稲＞玉蜀黍：ヴィエトナム，ラオス，カンボディア，マレーシア，スリランカ，フィリッピン，インドネシア．

稲＞玉蜀黍＞小麦：タイ，ミャンマー，ブータン，ネパール．

稲＞小麦＞玉蜀黍：バングラデシュ．

小麦＞稲＞玉蜀黍：パキスタン，アフガニスタン．

主要穀類の相対生産量には，その国の置かれている自然環境が反映され，湿潤（モンスーン）気候から半乾燥・乾燥気候への遷移が明瞭に認められる．

表6　玉蜀黍生産（1989-91～1999）

国　名	項　目	1989-91	1997	1998	1999	国　名	項　目	1989-91	1997	1998	1999
ヴィエトナム	収穫面積	463	659	649	687	バングラデシュ	収穫面積	3	2	3	3F
	収量	1567	2489	2484	2550		収量	974	1043	1044	1044
	生産量	727	1641	1612	1752		生産量	3	2	3	3F
ラオス	収穫面積	34	38	46	41	ブータン	収穫面積	44	45F	45F	45F
	収量	1755	2061	2369	2360		収量	840	867	867	867
	生産量	60	78	110	96		生産量	37	39F	39F	39F
カンボディア	収穫面積	48	34	47	50F	ネパール	収穫面積	754	800F	799	802
	収量	1419	1243	1023	1000		収量	1607	1646	1711	1678
	生産量	67	42	49	50		生産量	1212	1317	1367	1346
タイ	収穫面積	1551	1198	1290*	1300F	パキスタン	収穫面積	852	869	887	880F
	収量	2563	3198	3865	3561		収量	1396	1440	1467	1364
	生産量	3969	3832	4986	4630		生産量	1189	1251	1302*	1200F
マレーシア	収穫面積	20	27F	28F	28F	アフガニスタン	収穫面積	264	200	200	200F
	収量	1763	1778	1786	1786		収量	1712	1250	1200	1200
	生産量	35	48*	50*	50F		生産量	453	250	240	240F
ミャンマー	収穫面積	124	165	161	183	フィリッピン	収穫面積	3699	2726	2354	2701
	収量	1538	1732	1919	1650		収量	1264	1589	1624	1719
	生産量	191	286	308	303		生産量	4677	4332	3823	4643
スリランカ	収穫面積	29	26	30	30F	インドネシア	収穫面積	3004	3355	3834	3452
	収量	1122	996	1137	1137		収量	2129	2614	2653	2646
	生産量	33	26	34	34F		生産量	6394	8771	10169	9134

単位：収穫面積，1000ha；収量，kg/ha；生産量，Gg.
F：FAOによる推定；*：非公式数字.

5. おわりに

インドシナ3国では，稲作を中心とした農業が展開され，国経済の農業に依存する割合は依然として高い．しかし，農業人口，耕地面積，収量の違いを反映して，穀物生産量はヴィエトナムがはるかに高く，生産へのインプットや生産技術レベルでも，ヴィエトナムとカンボディア・ラオスでは大きな差があると見なされる．本文は，インドシナ3国の農業人口，土地利用，穀物生産の東南アジア・南アジアでの位置付けを知るために試みに行ったものである．自分が知らなかっただけかもしれないが，それぞれの国の特徴が良く現れた，面白い結果になったと思っている．

文　献

国際連合食糧農業機関（編）国際食糧農業協会（訳）2001 1999年FAO農業生産年報，251頁

Summary

Agricultural population, land use, and production of rice, wheat and maize were compared among the 14 countries of southeastern and southern Asia based on the FAO agricultural statistics for characterization of Indochina 3 countries (Viet Nam, Laos and Cambodia) in terms of these items. Common to the three countries, the proportion of agricultural population in the total population was in the range of 70~60% and rice had an overwhelmingly greater importance in the agricultural production. However, Viet Nam highly dominated over Laos and Cambodia in the gross output of cereals, reflecting the differences in the agricultural population, cultivated land and grain yield. Irrespective of these differences, Indochina three countries were ranked in the top level concerning the annual increasing rate of the index of the production of cereals.